

図2 授業の展開例

発問・指示など	
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">導 入</p> <p>(発問1) 「第二次大戦後1970年前半までの国際紛争をあげよ」 (発問2) 「1970年後半以後の国際紛争をあげよ」</p> <p>(指示1) 「発問1と2との国際紛争の特質について話し合わせ、発表させる」</p> <p>(発問3) 「第二次大戦後の国際紛争に対して、どういう平和実現の努力をしてきたか」</p> <p>(指示2) 「平和実現の努力の類型化とそれぞれの特質について話し合い、発表させる」</p> <p>(発問4) 「aとbとの関係は、どうか」</p>	<p>(指示3) なぜできないか、について話し合わせ発表させる。</p> <p>(発問6) 「新しい角度からの危機的状況とはどんなものか」 (指示4) 「その部分に下線をひけ」 (発問7) 「政治的、経済的格差がなぜ危機をもたらすか」</p> <p>(指示5) 「もっと広い視野にたつてそのものについての危機について考え、事例をだしあてよう」 (発問8) 「なぜ、人間の心のなかの利己性、暴力性が危機をもたらすか」</p>
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">展 開</p> <p>(発問5) 「上のような軍事的紛争の解決だけで平和は実現されるか」</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">終 結</p> <p>(指示6) 「平和実現への努力があらゆる分野で行われてきたが、十分とはいえないので、われわれの立場にたつて、とるべき態度について資料①、②、③などを参考にしながら話し合い、各自まとめ、できるところから取り組む姿勢をつくろう」</p> <p>(指示7) 「第二部、現代社会と人間の生き方」を学習する手がかりであることに留意せよ</p>

特に、③の困難性は、年度当初から教科担当者間で予想されたので、十分検討し、出題だけでなく、教科内容の教材化の研究、工夫を重ねてきたが期待した結果は得られなかった。

三 まとめと今後の課題

最後に、評価について。現代社会の設置の趣旨からみて、評価の観点は、社会生活における諸事象に関して知識・理解を求めるだけのものではあってはならない。思考力や判断力を養い、それらの能力を基礎に、社会の諸事象に興味をもち関心を高め、適応する力の育成が要請されている。

この要請にこたえられる「態度、関心」の評価に関して、本研究では定期考査などのペーパーテストだけでは評価できない部分が相当あったので、この部分についての評価は、レポートや感想文などを含め、それに加えて、授業中の発問、応答などを重視して行った。

今後の課題として、年間指導計画作成とともに、加えて評価計画作成についても従来にもまして内容の充実に努めたいと考えている。

(会津高等学校教諭・半野幸雄)